

タマネギ栽培前にスギナが確認できる場合は ほ場選定に留意しましょう（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 畑地における除草体系の実証（南相馬市）
担当者 根本知明

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域の保全管理中の農地では、畦畔付近などでスギナの繁茂が確認されている。タマネギ栽培では、球肥大期とスギナ繁茂期が重なり、スギナが繁茂するとタマネギの肥大が抑制されるため、タマネギの栽培にあたってはスギナの発生が少ない等、ほ場選定に留意する。

- (1) タマネギの1球重は、通常で362gに対してスギナ繁茂で296gと少なく、10aあたりの収量、粗収益は、通常区で5.6t、280,000円、スギナ繁茂区で4.6t、230,000円と試算された（表1）。
- (2) 収穫1ヵ月前のタマネギはスギナ繁茂区と通常区で生育に差は見られないものの、以降はタマネギの球肥大期とスギナの繁茂期が重なり、タマネギの肥大が抑制される（表2、図1）。
- (3) タマネギ栽培では、スギナの発生が少ない等のほ場選定に留意する必要がある。

2 期待される効果

- (1) タマネギ栽培に際して、ほ場選定の参考となる。

3 活用上の留意点

- (1) 本ほ場では、畦畔付近～ほ場内部で前年までにスギナの発生が確認されていた。
- (2) スギナには除草剤（土壌処理剤）の効果は見られず、4月上旬に萌芽、4月23日に擬葉展開、5月20日に草丈20cm、被覆率43%となった（表2）。
- (3) スギナを対象とした除草剤（茎葉処理剤）は散布していない。
- (4) 収量は、1球重×栽植密度（22,000株/10a）×欠株率として試算したものの。
- (5) 粗収益は、収量（t/10a）×単価（50,000円/t）として試算したものの。

II 具体的データ等

表1 スギナ繁茂によるタマネギ1球重と推定収量

	1球重 (g/球)	推定収量 (t/10a)	推定粗収益 (円/10a)
スギナ繁茂区	296±20	4.6	230,000
通常区	362±20	5.6	280,000

注1) 推定収量は、1球重×栽植密度(22,000株/10a)×欠株率(0.7)として

福島県青果物出荷規格の球径6cm以上のものとして試算した。

注2) 推定粗収益は、推定収量×単価(50円/kg)として計算した。

注3) スギナ繁茂区では、5月下旬からスギナ・ヒルガオが繁茂した。

表2 収穫1ヵ月前のタマネギの生育とスギナの繁茂状況

	タマネギ		スギナ	
	草丈 (cm)	葉鞘径 (mm)	草丈 (cm)	被覆率 (%)
スギナ繁茂区	70.0	18.0	20.0	43
通常区	69.3	18.3	6.7	5

注) 調査は、タマネギ収穫1ヵ月前の5月20日に実施した。



図1 スギナ繁茂の有無 (左：スギナ繁茂区、右：通常区、5月25日撮影)

III その他

1 執筆者

根本知明

2 実施期間

令和元年度

3 主な参考文献・資料

「東北・北陸地域におけるタマネギの春まき栽培技術」平成27年度・(国研)農研機構東北農業研究センター